

まちづくり懇談会内容【公開用】

日 時：令和 6 年 7 月 10 日(水) 18：30～19：49

場 所：カルチャープラザ「E k i」

出席者：39 人

1. 開会

2. 町長挨拶

※配布資料確認および日程説明

3. 懇談

(1) 令和 6 年度の推進事業について（資料①参照） 町長説明

(2) 自由懇談

4. その他

- ・町内会・自治会からの質問・意見に対する回答
別紙「関係機関・団体からの質問・意見」に対する回答一覧
- ・エフエムくりやまについて（資料②参照）
- ・緊急告知 FM ラジオについて（資料③参照）
- ・ごみの分別（リサイクルの推進）について（資料④参照）

5. 閉会

《懇談内容》

【自由懇談・全体質疑応答】

●防災ラジオについて

町民：防災ラジオの事業所に対しての対応はあるのか。

総務課長：各事業所への防災ラジオの配付を実施予定ではあるが、現在は町民各世帯への配付を優先しており、具体的な配付時期や方法については検討中。

●栗山高校女子硬式野球部員の増加による栗山町学生寮の増築について

町民：部員の生活環境を考えると、2 人部屋よりも 1 人部屋の方が良いのではないかと。

教育長：一年目の結果から、生徒によって部屋の人数の希望が異なることがわかっている。

また、全国の様々な寮の視察を行い、2 人部屋は生徒同士が学年関係なく交流を持つこ

とができる点などから、利点があるとわかった。当面は一つの建物でキッチンやバスルームなどを16人で共有するユニット式の形をとる。ユニット式は今後様々な用途で使うことができると考えている。来年度に人数が増えた際に随時対応していくためにも、16人単位としている。

●移住者の声の周知について

町民：栗山町の「まちという名の家族」という基本理念が素晴らしい。今までの移住者に対する様々な取り組みについて、何年かごとに移住者にアンケートをとり、その意見を町民に周知してほしい。

若者推進課長：来庁して転入された方に対しては、移住後も交流会などで相談できるフォロー体制を整えている。来庁せずに転入された方はここ数年で約400人いるが、その体制はなく、今後検討したい。

●エフエムくりやまの放送内容について

町民：エフエムくりやまによる放送で、医療機関の診療日を周知してほしい。

ブランド推進課長：町民の皆さんの様々な声を運営事業者の株式会社エフエムくりやまに申し入れていきたいと考えている。

町長：町民の皆さんにも番組に出演していただき、情報発信をお願いしたい。町民の皆さんと育てていくラジオ局にしたい。

●エフエムくりやまの放送内容について

町民：火災、事故の情報をリアルタイムで放送してほしい。

町長：消防と協議して検討したい。

●栗山赤十字病院の再建について

町民：栗山赤十字病院の再建後、診療科目の変更や病床数の増減はあるのか。

町長：診療科目は当面の間、変更しない。現在の医療受療動向を踏まえ、病床数は今より少し減少する。今後も時代のニーズに合わせて対応していく。

●町外から来た方のためのまちづくりについて

町民：町民のためだけでなく、移住者を含む町外から来た方のために、公共交通機関の発達が必要。特にバス路線の維持・充実を近隣市町村と協力して実現してほしい。次世代のためにも、官民一体となってまちづくりをしていきたい。

町長：移動手段については引き続き検討していく。官民一体となってまちづくりをすることは、これから先、特に必要であると考えている。その精神を忘れず、町民の皆さんと一緒に

に力を合わせて、まちづくりを進めていきたい。

●若者の人口流出について

町民：若者の人口流出を防ぐ取り組みはないのか。

町長：今はない。特に若者の就職先を増やすことが求められ、今後も企業の誘致活動が必要。また、子どもたちへのふるさと教育を進め、栗山町を心のふるさととさせていただけるようなまちづくりをしていきたい。

以 上